

言葉の順序

順序は大事だ。ミルクティーを淹れる場合でも、ミルクを先に入れておく派と、後からミルク派がある。焼酎のお湯割りでも、お湯先派と、後からお湯派がある。まあ、最後は同じ物なのかもしれないのだが。

言語表現においても「順序」は大事。言葉の順序で主張は大きく変わってくる。以前、こんなアンケート調査をしたことがある。「親しい友人を無料のコンサート(学内のクラブ活動。観客予定数は100名程度)に誘った」という文脈で、「わからないけど行くと思う」と「行くと思うけどわからない」という二つの返答表現の「来てくれる期待度」を答えてもらった。どちらが来てくれそうでしょうか？

期待度の平均値は、前者が67・6%、後者が44・7%。つまり、「わからないけど行くと思う」はそれなりに来てくれそうだが、「行くと思うけどわからない」の方は、来てくれるかどうか

らない」の方は、来てくれるかどうか、かなり微妙という解釈なのであった。ここから、文章表現では、後の方に来る内容が大事、と言える。同じことを言うのでも、言い方の順序は大事なのだ。

順序は、評価を書く場合にも生かせる。同じ情報要素でも書く順序によって伝わる意味は違う。「とても頑張っていました。しかし、〇〇は課題です」という書き方と、「〇〇は課題です。しかし、とても頑張っていました」という書き方では、読み手としてのうれしさは大きく違うのではないだろうか。要するに「課題あり」ということになるのか、要するに「頑張っていた」という認定なのか、という違いは大きい。おそるべし！「順序」。

性質の違いにはなるのだが、語の形の上での順序もおもしろい。「コロッケカレー」と「カレーコロッケ」の違い

いはどうだろう。日本語では、後ろに位置する言葉が重要で、前者はカレー、後者はコロッケだ。だから、「カレーコロッケ入りコロッケカレー」はあるけれど、「コロッケカレー入りカレーコロッケ」はちょっと想像できない。順序に応じて、私たちの頭の中はフル回転でイメージを作っていく。「順序」、おそるべし！

そうそう、「合格ぎりぎり」と「ぎりぎり合格」も大きく結果が違う。前者は要するに「ぎりぎり」であって、合格とは限らない。「合格ぎりぎりなのに落ちた」という悲しい結末とも読める。それに対して「ぎりぎり合格」は、ともかくも「ごつかく！」である。

もっとも、「あなたにだけ」「あなただけに」みたいに、違いが微妙でわかりにくいものもある。とにかく、言葉において、順序は大事。ん？ 大事なのは順序……？